

胃がん

胃がんはとくに日本人に多いがんで、部位別がん罹患率は第2位、がん死亡数も第3位です。しかし、検査法や治療法の向上により、早期に発見できれば「ほとんど治る」がんになりました。



とくに
注意が必要な人

下記の方は胃がんにかかるリスクが高いため、生活習慣を見直すとともに、胃がん検診を積極的に受けることをおすすめします。

- ピロリ菌に感染している人
(中高年で感染率が高い)
- 塩分をとり過ぎる人、野菜や果物をあまり食べない人
- 喫煙している人

どんな病気ですか？

胃がんは、胃の粘膜の細胞にできる悪性腫瘍で、初期の段階では自覚症状が出るのが少なく、かなり進行しても無症状の場合があるので、注意が必要です。

胃がん発生を高めるリスク要因としては、喫煙、塩分が多く野菜の少ない食生活といった生活習慣とヘリコバクター・ピロリ菌（以下、ピロリ菌）の感染があげられます。

予防法は？

生活習慣を改善するとともに、胃がん検診を受けましょう。また、ピロリ菌に感染している人は、感染していない人と比べ、胃がんにかかるリスクが10倍以上高いとされています。ピロリ菌感染の有無を調べる検査を受けることをおすすめします。

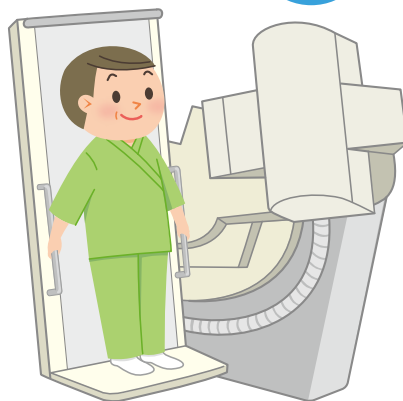
胃がんに関する 検査

胃がん検診

50歳以上は
2年に1回の受診を
おすすめ

X線検査は当分の間、40歳以上を対象としても差し支えないとされています。

X線または胃内視鏡（胃カメラ）による検査です。X線検査はバリウムを用いて胃の壁面を調べ、胃内視鏡検査は、内視鏡を口や鼻から入れて、胃の中を直接観察します。どちらも検査前の食事や飲料の摂取制限があります。



胃がんの 精密検査

基本検査をX線で行った場合は胃内視鏡検査を行い、基本検査を胃内視鏡検査で行った場合は胃内視鏡の再検査または生検を行います。

●生検

胃内視鏡検査時などに、組織を採って顕微鏡で詳しく調べます。

■ABC検査

胃がん発生と関係があるとされるピロリ菌感染の有無を調べる検査と胃粘膜の萎縮（老化現象）の有無を調べる検査を組み合わせ、胃がんになりやすいかどうかを分類する血液検査です。ABC検査でピロリ菌感染が判明した場合、適切な除菌治療（胃内視鏡で胃炎を確認すれば保険適用）を行うことができます。